

令和3年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（中央区）

東千葉	担当圏域 地区課題	圏域は住宅密集地に位置し戸建てが多い地域と戸建てと集合住宅が混在する地域に分かれている。 特に、集合住宅に住む高齢者の中には地域社会との接点を持たず孤立化している方も多く、孤独死や相談があった時にはすでに状態が悪化しているといった問題が顕在化してきている。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響による地域活動の縮小や高齢者の閉じこもりといった課題に対し、地域活動再開への支援や民生委員との連携による予防的介入を積極的に行う事で影響を最小限に抑える。 ・地域活動の継続や民生委員との関係強化により身近な相談機関であるあんしんケアセンターの周知を行い、地域で孤立している高齢者にも早い段階から介入し予防的な支援に繋げる。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待に係る8050問題への早期介入を目指し、中央区障害者基幹相談支援センターと連携し民生委員や自治会向けの出前講座、相談会を地域ケア会議として開催を目指す。（椿森） ・あんしんケアセンターの周知を兼ねた出前講座の開設（道場北） ・体操教室の自主化（道場北）
中央	担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ小中学校地区でも町丁により地域特性が大きく異なる。 ・地域によっては住民主体による支え合い活動が少ないところがある。 ・利便性が良いため他市・他区からの転入者が多く、生活範囲内に知り合いのいない高齢者がいる。 ・駐車場が無い、またはあっても高額のコインパーキングであるエリアが多く、車を使った訪問型サービスの提供を断られることがある。
	活動方針 (総合)	<p>住み慣れている人は、住み慣れた地域で暮らし続けられるように支援し、他市他区から転入してきた人も安心して暮らせるように支援する。地域の支え合い活動だけでなく、自助としての市場サービスの利用も含め、インフォーマルサービスも活用した支援を行っていく。</p> <p>複合的な問題を抱えつつも親族や支援者がいないケースが増えているため、関係機関と協働して支援を行う。</p>
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・移動能力が低下している人を対象とした介護予防活動支援（旭町）
千葉寺	担当圏域 地区課題	<p>坂道や細い路地が多い地域であり、商店や医療機関が大きな街道沿いに集中している。また、公共交通機関利用のためには、そのような地形を通して大きな街道沿いまで出る必要性があることから、足腰が弱ることで生活のしづらさが生じる可能性がある。</p> <p>一人暮らし、高齢者のみで構成された世帯からの相談が多く、複雑化した状況で相談に至ることも少なくない。複雑化する前に家族、近隣住民等が異変に早めに気づけるようセンターや各制度等についての周知が必要である。</p>
	活動方針 (総合)	<p>世代を問わずに『安心して年を重ねることができる地域』を目指し、関係機関と連携し、介護予防活動の大切さや認知症の理解、意思決定支援の大切さ等を伝え、コロナ禍であっても、地域住民が自身の将来を見据えて地域づくりに取り組めるように働きかけていく。</p>
	重点活動 テーマ	“つながり”を支える地域支援（圏域全域）

松ケ丘	担当圏域 地区課題	<p>新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言が発出される状況となり感染症対策として、地域活動の多くが中止や延期となっている。感染者数の増加、高齢者施設の休業により、活動の自粛、フレイルが心配される。</p> <p>高齢者人口は増加して、単身世帯、高齢者世帯の相談は多く寄せられている。認知症や精神疾患を原因として生活に支障を及ぼしている方や経済的困窮にある方からの相談が多い。</p> <p>また、家族の抱えている問題が高齢者の生活に影響している家庭もあり支援の難しさを感じている。</p> <p>多くの社会資源はあるが、地域差もあり、介護や活動の担い手、後継者などのマンパワーが不足している。</p>
	活動方針 (総合)	<p>高齢者一人一人が住み慣れた地域で健康に過ごせるよう地域の実情、特性に即した活動を地域の方と共に行う。</p> <p>感染症対策、防災対策の観点を持ち、新しい生活様式の考えも取り入れ、ICT等の活用、工夫して介護予防などの地域活動を進めていく。</p> <p>民生委員、社会福祉協議会、町内自治会連絡協議会、医療機関、生活支援コーディネーターや基幹型相談支援事業所、行政機関と連携を図りながら、地域のネットワーク構築、地域包括ケアシステム構築の推進を図るため、積極的に地域に赴き、地域活動への参加、協力、情報収集、社会調査等で地域住民のニーズの把握、実情に合わせた地域づくりに取り組む。</p>
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・出張相談会開催が必要な地区の把握や開催に向けての準備（圏域全域） ・団地住民、地域の実情に合わせた集まりの場・機会の提供（仁戸名町） ・地域課題検討に向けた地域ケア会議開催（仁戸名町） ・116地区民生・児童委員協議会定例会への参加（仁戸名町） ・集いの場に代わる介護予防プログラムの作成・実施（白旗出張所：京成線以西） ・介護予防プログラムの効果検証（白旗出張所：京成線以西） ・あんしんケアセンターの周知（白旗出張所：京成線以西） ・介護予防普及啓発（白旗出張所：京成線以西）
浜野	担当圏域 地区課題	<p>この圏域は内科疾患で入院できる病院がなく、医療機関も少ない。また、大型スーパーや銀行といった生活に密着した施設が少ないため、運転をやめた高齢者は日常生活に支障が出始めている。</p> <p>中央区内では最も高い高齢化率だが、介護保険の認定率は一番低く、介護保険サービス利用に対して閉鎖的であることがわかる。新型コロナ感染予防のため、地域活動を休止している団体も多く、担い手の高齢化や活動の継続に課題がある。</p>
	活動方針 (総合)	<p>高齢者が周囲の支援を受けながらも、住み慣れた地域でできる限り元気で、生きがい・尊厳のある暮らしを継続できるよう、その人の状態に応じて、医療・介護・予防・住まい及び生活支援サービスを継続して提供する「地域包括ケアシステム」の構築を深化するために、関係機関と連携を図り、多職種協働で取り組んでいく。</p> <p>また、地域共生社会の足がかりになるよう、高齢者以外の方にもセンターの周知活動を行い、地域活動にも積極的に参加する。</p>
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんケアセンターの周知活動（生実町） ・アンケート結果から、自治会活動や見守り活動について検討（生実町） ・小田急浜野団地自治会全戸アンケート（村田町）

令和3年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（花見川区）

こてはし台	担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・センター所在地であるこてはし台は高齢化率が50%を超えており、高齢世帯や独居高齢者が多い。ボランティア団体などの支援者側も高齢化が進んでおり今後の支援体制に不安がある。 ・16号より北側（センター事務所より距離がある地域。）の宇那谷町、大日町、内山町、み春野地区では、人口密度が低くセンターへの相談件数が極端に少ない地域。通いの場やインフォーマルな社会資源も少ない。 ・生活困窮者、身寄りがいない等の複合的な問題を抱えている事例が多くなってきている。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・こてはし台地区での地域ケア会議（年2回）を継続し、地域のネットワーク構築を図る。 ・16号より北側の地域に対して、早期対応・早期支援ができる体制づくり、介護予防普及啓発活動を行っていく。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・出張相談会・講座の開催（宇那谷町、大日町、内山町、み春野） ・あんしんの周知活動と地域活動の参加（宇那谷町、大日町、内山町、み春野）
花見川	担当圏域 地区課題	<p>センター所在地である花見川団地は昭和43年に建てられた大型団地であり、建設当初の入居者が高齢となり担当圏域でもトップの高齢化率（平均43.7%）である。</p> <p>相談件数も花見川団地で約半数以上を占めている。認知症を伴う高齢・独居世帯の増加から安否確認や後見問題につながる相談が多く、地域住民の大きな不安となっている。</p> <p>また、地域を支える支援団体、民生委員等も高齢化が進み、後任探しや欠員状況が続くなど苦慮している。</p>
	活動方針 (総合)	<p>花見川団地に限らず、圏域の民生委員、支援団体、地域住人からの情報提供により、認知症を伴う高齢・独居世帯の安否確認等で介入に至る相談が多い。</p> <p>こういう状況を踏まえ、相談件数が少なく活動が不十分な地域へのアプローチや周知活動から地域関係者とのネットワーク作りを推進していく。</p>
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・担当民生委員や自治会等の地域支援者との関係性の構築（長作町） ・サロン・地域活動の情報収集と参加（長作町） ・介護予防に関するミニ講座や講演会の開催（長作町）
さつきが丘	担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数が最も多いさつきが丘地区において、特にさつきが丘団地在住である高齢者からの相談が著しく増加。相談内容が複雑化することも多く、課題解決まで至らないこともある。また、さつきが丘団地は分譲後、約50年が経過しており、高齢化が進行。近年独居高齢者の孤独死が続いている。 ・犢橋地区で最も相談が多い千種町では、生活困窮者の増加に伴い、経済面での支援相談が多くなっている。 ・担当圏域内において、犢橋町のニーズを把握しきれていない。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容が複雑化しているケースについては、行政機関の支援が不可欠。行政機関との連携を強化し、課題解決を図る。また、高齢化や孤独死問題においては、民生委員や町内自治会等の地域組織との連携が不可欠。地区部会や民児協への会合出席と地域活動への参加を継続する。不足している町内自治会単位での活動を充実させる。 ・犢橋地区での活動が不足しているため、今年度は犢橋町を最重点地区として活動を行う。また、犢橋地区の課題である住宅の点在化や交通機関がないことによる高齢者の孤立について、課題解決に向けて役割の一旦を担う。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者全戸ニーズ・地域特性調査（犢橋町） ・地域課題の解決に向けた地域ケア会議（犢橋町） ・体操教室や集いの場の立ち上げ支援（犢橋町）

に れ の 木 台	担当圏域 地区課題	地理的には主要道路に路線バスが通っているが、バス停までに坂道が多く買い物や外出が困難となっている地域がある。圏域内にあるエレベーターのない中層団地（にれの木台団地や西小中台団地）には高齢者世帯や独居の方が多く居住されている。自治会の未加入者も多く住民間の交流も少なくなっている。高齢化率も上昇してきているため、介護予防や認知症予防の活動や、集いの場の周知活動が必要となっている。また近年認知症や障害、精神疾患、経済的な問題や8050問題など、複合的な生活課題を抱えている相談者も増加してきている。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんケアセンターの周知活動に力を入れ、早期に支援介入ができるように努める。 ・認知症予防や介護予防についての普及啓発活動を通じて、地域包括ケアシステムの構築を推進する。 ・多問題を抱えた困難事例に関しては関係機関と連携し、総合相談支援機能向上を目指す。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんケアセンターの周知活動の強化（西小中台） ・団地自治会関係者や民生委員との連携の強化（西小中台） ・西小中台地区の総合相談支援の強化（西小中台）
花 園	担当圏域 地区課題	JR新検見川駅に近い南北に広がる地域。比較的交通の便は良く、東京のベッドタウンとして40年以上前に建てられた住宅が多い。独居や高齢者世帯も多く、地域によっては住民同士の関係性が希薄である。高齢化率も上がっている為、認知症や高齢者サービス等の周知活動が必要である。 また、地域の活動場所はあるが、その場所までの移動手段が少ない為、利用したくても利用できない地域もある。
	活動方針 (総合)	住民組織やサロン、事業所懇談会等に積極的に参加し、地域住民の方と話す機会を継続的に持っていけるように活動していく。新型コロナウイルスの影響で対面が難しい状況もある為、対面以外での連絡方法（ICTの活用）も検討していく。 地域住民が安心して地域に住み続けられるように地域住民や関係機関との連携を大事にしていく。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんケアセンターの周知活動（南花園）
幕 張	担当圏域 地区課題	幕張町から武石町にかけて急速に戸建て住宅が整備され、子育て世代の方々の転入が急増中。 一方、古家跡地に単身者用集合住宅が多数建築され、若い単身者の転入出が目立つ。両親の呼寄せ介護の相談も増加しているが、転入者のセンター認知度は極めて低いと推測される。 1970年代の海岸開発時、埋め立てにより拡張された地域に建築されたマンション群は、入居者の多くが後期高齢者になっている。自主活動組織の活動では、運営・参加者の高齢化に伴う役割交代が進んでいない。 令和2年からのコロナ禍を機に、解散した老人会や活動再開の見込みが立たない団体もある。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関や民児協や自治会をはじめ、社協地区部会や自主活動組織と連携し、高齢者が安心して暮らし続けられる環境整備を目指す。 ・地域住民間の顔なじみを増やし、変化への気づきや一声かけられる関係づくりの構築を推進する。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・集合形式での認知症カフェを開催する（武石町、幕張町、幕張本郷）

令和3年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（稲毛区）

山王	担当圏域 地区課題	戸建住宅、集合住宅においても地域コミュニティが機能している地域は多いが、高齢化から支える力が弱くなってきている。自治会のない集合住宅や新型コロナウイルスの影響から地域での活動が休止しているなど、要支援者の把握が難しい地域がある。
	活動方針 (総合)	地域活動の継続・地域ケア会議の開催などを行い、地域課題の抽出・解決を目指していく。ICTの活用などにより、地域活動が休止している地域においてもつながりが保持できるようにしていく。自治会のない地域に対しては、民生委員などと連携し、要支援者の把握に努めていく。
	重点活動 テーマ	・ICTを活用したネットワーク作り（圏域全域）
園生	担当圏域 地区課題	団地の高齢化率が高いのは変わらずだが、それ以外の地域でも昭和40年代に建築されたマンションが多く立ち並ぶところでは、住民の高齢化が進み、相談件数が増えつつある。 本人や家族が精神的な障害を抱えているケースが増えている（前年比より28件増）。
	活動方針 (総合)	コロナウイルスの状況にもよるが、対面式の相談方式だけでなく、オンラインやメールの活用等を用いる。 地域住民自身が地域の高齢化に対して、真剣に向き合っているところが多いため、地域ケア会議の活用等を促していく。 地域の高齢者やその家族に対し、ICTの活用ができるような講座を開催していく。
	重点活動 テーマ	・認知症徘徊模擬訓練の継続開催（園生町） ・介護保険制度、介護予防、セルフケア、エンディングノートの周知及び説明会の開催（あやめ台）
天台	担当圏域 地区課題	・認知症高齢者や精神障害を抱える高齢者が地域で暮らしていけるよう法整備が進んできた反面、地域における住民トラブルが増加し、問題が複雑化してきている。 ・コロナウイルス感染症蔓延に伴い、通いの場が中止となり、在宅高齢者が自宅に引きこもりがちになっている。 ・8050問題や経済的困窮など、一つの世帯が様々な問題を複合的に抱えている事が多く、他機関と連携して対応するケースが増えている。また、適切な窓口が見当たらないケースも起きている。
	活動方針 (総合)	・高齢者の担当機関だけでなく、障害や児童も含めた様々な関係機関と協力し、地域の課題解決に向けて働きかけを行っていく。精神疾患を患う方や若年層の引きこもり等に対応できるアウトリーチ機関の必要性について声を上げていく。 ・若い世代に対して積極的にアプローチを行い、将来の担い手に当たるべき社会資源の確保に努める。 ・地域活動の担い手となる住民に対してICTの活用等について学ぶ機会を作り、どのような状況下でも地域活動が停滞する事の無いような環境整備を行っていく。
	重点活動 テーマ	・実態把握（千草台） ・民生委員や自治会長等、地域住民との意見交換会（民生委員区） ・サロン継続についての支援（民生委員区） ・感染対策を意識した健康測定会などイベントの企画（民生委員区） ・地域課題の解決に向けた地域ケア会議の開催（萩台町） ・地域における災害マップ作りの実施（圏域全域） ・災害時の地域住民による高齢者支援活動の有効性向上（天台）

小 仲 台	担当圏域 地区課題	町会・自治会の組織がある中でも、自治意識の差が生じている。自治意識が高い地域(小仲台、穴川)は高齢者同士の助け合いを目的としたサークル結成など、自助だけではなく互助への和が広がっている。一方、組織の自治意識が比較的低い地域(轟町、弥生町)は、自助、互助への意識が低く、公助、共助を利用し、生活再建を目指す傾向にある。そのため、地域の問題を住民主体で解決することが難しい。
	活動方針 (総合)	コロナ禍で住民主体で集めたサロン、体操教室、またあんしんケアセンター主催の講座や出張講座の開催は難しいことが想定される。しかし、ICTなどを活用しながら感染予防を講じるとともに、新たな開催形態を模索し、今後も介護予防を含め、個人の課題から地域で取り組む具体的課題へ変換できるように働きかけていく。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 各集合住宅の町会、自治会、担当民生委員と共に地域課題を共有（轟町） 高齢者の集いの場として利用可能な資源の発掘（轟町） 地域課題検討に向けた地域ケア会議の実施（轟町） コロナ禍で中止中の体操サークルやサロンの後方支援（轟町）
稲 毛	担当圏域 地区課題	圏域における高齢化率は20.7%で若い世代も多く住む地域である。公共交通機関の利便性が高いため、近年新しく大型マンションが建設され若い世代の転入が大きく影響している。また利便性を求め、高齢者のマンションへの転入も多く、世代格差や、地域のつながりが築きにくい傾向がある。新天地での環境で交流が深められず孤立化したり、同居世代でも子世代が就労により日中独居となり、他者との交流がないまま孤立した時間を過ごし、不活動になる。旧来の居住者に関しては近隣者と繋がりがあっても、互いの身体面の低下や配偶者の他界により孤立化しているため、地域活動の促進を急務に進める必要がある。
	活動方針 (総合)	地域資源を有効活用し全世代が暮らしやすい地域を創り出す。 関係機関と連携し、地域住民のニーズ把握から地域課題を発掘する。専門職の継続的な支援、地域の居場所などにおける様々な活動を通じてセーフティネットを構築していく。また地域課題を発掘するために地域ケア会議を実施しネットワークを構築する。高齢者に必要な情報を講座や情報誌等で発信し、幅広く啓発ができるよう進めていく。 個別訪問を繰り返し、高齢者との信頼関係を構築しながら、自立支援に向けた支援を実施していく。
	重点活動 テーマ	<p>マンションでの介護予防活動（稲毛東地区）</p> <p>自治会、マンション管理組合と介護予防と高齢者が住みやすい環境の必要性について話し合い（稲毛東地区）</p> <p>支え合い事業と連携した介護予防活動（稲毛東地区）</p> <p>地域課題に向けた地域ケア会議（稲毛東地区）</p> <p>新築マンション住民に向けた戸別訪問（稲毛東地区）</p> <p>集いの場での認知症サポーター養成講座（稲毛東地区）</p> <p>いきいきプラザで認知症サポーター養成講座（稲毛東地区）</p> <p>支え合い事業所と連携（稲毛東地区）</p> <p>住民主体の介護予防活動広報宣伝（稲毛東地区）</p> <p>地域課題や地域の情報を共有し社会資源を広め自助・互助・共助の働きかけ。（黒砂・黒砂台・緑町）</p> <p>担い手の発掘から介護予防教室・住民主体の活動を周知し、ボランティアと協働開催する。（黒砂・黒砂台・緑町）</p> <p>福祉施設との連携を図り顔の見える関係、地域との助け合いを強化（黒砂・黒砂台・緑町）</p> <p>地域課題検討に向けた地域ケア会議の実施（黒砂・黒砂台・緑町）</p> <p>いきいき活動手帳の交付と活用（黒砂・黒砂台・緑町）</p> <p>徘徊模擬訓練の実施（黒砂・黒砂台・緑町）</p>

令和3年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（若葉区）

みつわ台	担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響により、高齢者、民生委員の方の地域活動も慎重になり、これまでの繋がりが希薄になりかねない。 ・自治会の数が多く、地域を細分化している。自治会活動をする場が少なく、自治会活動に支障をきたしている。 ・支え合い活動が充実している地域とそうでない地域の差異がある。 ・地域福祉を推進して行く次世代の担い手が不足している。 ・医療、福祉、教育等の各分野間の連携が十分では無い。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターと連携を図りながら、NPO、ボランティア活動等によるサービス資源の開発を支援する。 ・コロナ禍ではあるが感染症予防を徹底し、地域ケア会議等で、地域の支え合い活動団体との協議の場を持ち、地域課題の創出、実行性のある目標立てをする。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を講じ、出張相談会及びそれに準じた相談環境の整備（東寺山町） ・地域課題検討に向けた地域ケア会議の開催（東寺山町） ・県営住宅組合を中心とした見守りネットワークの拡充（東寺山町） ・様々な講座を開催し、介護予防や権利擁護の知識等を周知（東寺山町）
都賀	担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯、独居世帯が増加し、世帯構成員が精神疾患等の理由で就業していない等、複合的な問題のある事例が増加している。 ・担当圏域の高齢化率は、駅周辺などは20%台の地区もある一方、40～50%と高い地区もあり、支援者側も高齢化してきている。また、地域によって住民の地域福祉に対する意識に差がある。 ・新型コロナウイルスの影響で地域活動が中断している為、自宅で過ごす時間が増えた事でADLの低下を招いている。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の特性や実情を踏まえてニーズを把握し関係機関と連携を図り地域包括ケアシステムが構築できるよう努める。 ・住み慣れた地域で生活し続けられるよう、適切な支援を行う。 ・高齢者に関する相談対応機関であることの周知に努めるとともに、担当圏域に暮らす高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送れるように相談支援・権利擁護・包括的継続的ケアマネジメント業務を円滑に行う。 ・新型コロナウイルスに対する感染対策を講じた上で、支援・連携を図っていく。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニデイわかまつの活動継続支援（若松町北部）
桜木	担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ①地域により、福祉に関する理解や意識に差があり、連携や相談等で細やかな対応が必要である。 ②個別ケース相談では、金銭問題、精神疾患、身寄りのない高齢者、複雑な家族関係、虐待等複合的な内容が多くなっている。問題解決まで長期的に関わるケースも増えており、関係機関や地域との連携強化を図る必要がある。 ③福祉活動の担い手不足がある。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の状況に応じた働きかけを行い、あんしんケアセンター桜木としての活動を展開する。 ②職員の援助技術の向上を図り、個々の総合相談を通じて地域住民や関係機関との連携を迅速に行う。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・社協桜木地区部会、貝塚地区部会との連携（社協桜木地区部会、貝塚地区部会）

千城台	担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内17,756世帯のうち独居高齢者の割合が1,358人（約7,6%）、高齢者夫婦のみの世帯も多く、地域との関係性が希薄な場合は生活課題が表面化しにくい状況にあり、介入時には課題が複合化している相談が増加傾向にある。 また、千城台、小倉台周辺にエレベーターの無い市営、県営住宅が多く、外出や交流機会の減少が孤立化、心身機能の低下につながっている傾向にあるほか、郊外の更科地区は交通の便が悪く、通院や買物等、外出時の移動手段確保に苦慮する事が多くなっている。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの移転が商業施設内へ決まり、センターの役割や地域状況を幅広い住民の皆様へ周知する事で、支援が必要な高齢者を早期に発見し、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう適切な支援を行う。 また、地域包括ケアシステムの推進に向けて、地域ケア会議の開催や連絡会への参加を行うほか、障害や児童等の団体とも連携することで複合的な課題を抱える世帯への幅広い支援の充実や高齢者が身近な場所で健康づくりを行えるように体操教室の開催、介護予防を推進する団体との連携を深める。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会運営の「サロン水曜日」「サロン金曜日」への毎回参加による活動支援や参加者、地域への情報発信。（社協 御成台、千城台西北地区部） ・更科公民館と連携した住民向け講座の定期開催。
大宮台	担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率46%を超える圏域であり、農業が盛んで集落が点在している地域特性がある。 ・独居や高齢者世帯が多く、認知症(疑い)の方が増えており、何らかのニーズを持っていてもサービスにつながっていなかったり、問題を抱えたまま生活しているケースが考えられる。 ・圏域内の商店や開業医が減っており、交通の利便性も良くないため、生活に支障が出ている。買い物や通院、集いの場に出かける際に利用できる移動手段の確保が困難である。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域における地区特性や実情を踏まえて、地域ケア会議等を通じて地域住民が抱える課題を把握し、地域の様々な関係機関と連携を図りながら、「地域包括ケアシステム」の構築・推進に取り組む。 ・コロナ禍においてもICT等を活用することで、他機関と連携し、会議等を開催する。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域高齢者が気軽に通える「集いの場」を作る。（圏域全域）

令和3年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（美浜区）

真砂	担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・独居・高齢世帯からの相談が増加。（令和2年度世帯別相談割合 独居高齢者 44.4% 高齢世帯 28.5% 同居 24.4% その他 2.7%） ・認知症、精神、知的障害など多問題を抱える世帯が増え、成年後見制度への繋ぎが必要な方が急増。（前年比37.0%増） ・障害の制度や法的な問題に対する専門職や支援者のサポートが不足している。 ・近隣との交流・見守り体制が希薄、相談・支援先を知らないことで問題が潜在化、事態の重症化を招きやすい。 ・エレベーターのない低中層住宅がおよそ80棟あり、居住する高齢者の閉じこもりや外出困難が問題となっている。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題を住民へ伝え、見守りの意識を高める。住民の通報により支援が必要な高齢者が早期に発見され、住み慣れた地域で安心して暮らせるように総合相談支援、権利擁護、介護予防ケアマネジメントなど適切な支援につなげる。 ・地域包括ケアシステムの推進に向けて、介護予防講座の開催、介護予防活動団体への支援、生活支援コーディネーターとの連携により地域住民や関係機関・団体とのネットワーク構築を図る。 ・在宅医療と介護、障害の情報収集に努め、複合的な問題を抱える世帯への相談支援及び連携体制の基盤づくりに取り組む。 ・普及啓発や連携会議等は、ICT環境の有無などニーズを把握した上でオンラインも含めた方法で行う。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域ケアマネジャー及び介護サービス事業所との連絡会の開催（圏域全域） ・子育て、現役世代への介護予防及びあんしんケアセンターの普及啓発（真砂）
磯辺	担当圏域 地区課題	<p>地域により高齢化率や地域特性に大きな差がある。</p> <p>医療機関、介護事業所などの社会資源や高齢者が歩いて行ける範囲の商店なども少なく、またエレベーターのない中層団地が多く、高齢者の外出の機会が減っている。</p> <p>高齢化率が高い地域は8050問題や複合的課題を抱えたケースの増加がみられる。一方で生活支援にニーズのある人と担い手になる人の効果的なマッチングも課題となっている。</p>
	活動方針 (総合)	<p>各地区の特性やニーズに合わせた地域包括ケアシステムの構築へ向けて、保健福祉センター、医療機関、介護サービス事業者、民生委員、自治会、社会福祉協議会等との連携を深め協働して取り組む。</p> <p>また、関係機関との連携を取りながら地域での住民主体となれる活動の促進を図る。</p> <p>地域ケア会議を実施し、地域課題を明確にし、関係機関と共有する。□</p>
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような方法で支援のニーズのある人と担い手を繋げるかを検討する。（打瀬地区）

高 洲	担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・独居率が高く高齢者世帯も多い。家族等のキーパーソンが不在であったり、遠距離に在住していることで医療面、認知面での問題に対し発見が遅くなり対応も困難となっている。 ・集合住宅で占められている地域で他市、他県から移住してくる方が多く地域の資源が分からなかったり、コミュニティをうまく活用出来ないことで引きこもりになっている方が多い。 ・サービス事業者、高齢者施設が少ないことで適切なサービスに結びつけていくことが遅くなる傾向がみられる。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防が必要とされるなかでの総合相談の支援、関係機関との会議、介護予防等安全かつ有効に実施していく。 ・生活支援コーディネーターとの連携を図り改めて地域資源の調査に努め、情報を住民に提供していく事で介護予防の促進に努めていく。 ・昨年度の事務所の移転により、来所者や相談件数が増加している中、地域の中核として積極的な普及啓発に努めていく。
	重点活動 テーマ	<p>生活支援コーディネーターと地域資源調査（生活支援サイト活用）（圏域全域）</p> <p>社会資源冊子の更新（圏域全域）</p> <p>関係機関と連携会議（圏域全域）</p> <p>総合相談をもとにした地域分析（圏域全域）</p> <p>社会資源や介護予防冊子による普及啓発（冊子やチラシの作成、住民への配布 集まる場所での掲示）（圏域全域）</p>
幸 町	担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・独居、高齢世帯の孤立化、経済的困窮、精神疾患、家族問題、権利擁護が絡む複合的な問題がある。 ・地域により見守り機能や地域活動に差があり、問題が潜在化しやすい。 ・新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、生活が不活性化している。地域だけでなく家族との関係性がより希薄になっている。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、独居及び高齢者世帯の見守り体制を構築する。 ・新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、より深刻になった潜在的な引きこもり等、問題の早期発見につなげる。 ・ネットワークの強化を図ると共に、地域力の向上を支援する。 ・コミュニティーの少ない地域の実情を把握し、相談の支援体制を整える。
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な周知活動とコミュニティーやネットワークの形成（幸町1丁目）

令和3年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（緑区）

鎌取	担当圏域 地区課題	<p>1 鎌取圏域の高齢化率は16.67%（令和2年12月末現在）で、市内の他圏域と比較して最も低いものの、高齢者人口は1万人を超えており、ここ数年の高齢者人口の増加率は市内で最も高い数値となっている。5年後～10年後には高齢化率が急速に高まっていく。介護予防や生活支援に関する受け皿不足が懸念される。</p> <p>2 自治会加入率が低迷している地域や呼び寄せ高齢者が多い地域では、地域の繋がりの希薄化がみられる。地域活動への参加や支援体制に地域差が生じており、担い手の高齢化が進んでいる。</p>
	活動方針 (総合)	<p>1 地域ケア会議の開催を通じ、各地区毎の特性と課題の把握に努め、地域包括ケアシステムの構築を目指す。</p> <p>2 地域住民が健康な段階から、介護予防や終活といったことに目を向け、自発的に取り組めるよう支援を行う。</p> <p>3 コロナ禍や自然災害の際にも必要な支援をスムーズに提供するため、関係機関との連携やICTの活用などに努める。</p>
	重点活動 テーマ	<p>社会資源と専門職及び関係機関との橋渡しを行いながら、地域包括ケアシステムの構築を目指す。（圏域全域）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOやサロン運営団体を招いてのケアマネ連絡会の開催。 ・地域課題解決に向けた地域ケア会議の開催。 ・ICTの積極的活用。
誉田	担当圏域 地区課題	<p>1 圏域南側を東西に走る幹線道路と並行するJR以外に交通手段がない。高田町・平川町はさらに交通手段がなく、近隣から自力で出ることが困難な状態にある。誉田3丁目は駅前であるのに坂が多く、スーパーが廃業してしまい、それまで利用せずにすんでいた介護保険サービスを利用せざるを得なくなっている。</p> <p>2 様々な事情（新しい関りには消極的な住民が多い、新入住民が多い、自治会が大きすぎてまとまらないなど）から、住民主体の活動があまり育たない。</p> <p>3 圏域の居宅介護支援事業所の内、ICTを活用できる環境がない事業所がある。</p>
	活動方針 (総合)	<p>1 第2層生活支援コーディネーターやCSWと連携し、様々な手法を活用して地域診断を的確に行い、必要な地域に必要な活動を提供できる住民主体の助け合いグループやサークルの立ち上げ支援に力を入れる。</p> <p>2 対面以外の方法を工夫し、あんしんケアセンターの活動を周知する。この時若い世代にも周知活動を広げる。</p> <p>3 職員のICTを活用できるスキルを高める。またその環境にない事業所に対しては、これまで通りの対面や書面でのつながりを持ち続け、連携に差がでないよう配慮する。</p>
	重点活動 テーマ	健康測定会開催（誉田町）
土気	担当圏域 地区課題	<p>①子育て世代の転入で高齢化率が10%に満たない新興住宅地と宅地開発され40～50年経過し、高齢化率が45%を超えている戸建て団地の地域が混在しており、圏域全体に高齢化が進行している。</p> <p>②高齢化率が高い地域は単身や高齢者夫婦のみの世帯が多く、孤独死や老老介護の状況が多く見られる。</p> <p>③高齢者と同居する家族が精神疾患や障害を抱えている等複合的な課題を抱える世帯の相談が増加している。</p> <p>④圏域全体が交通の便が悪く、通院や買い物等移動に困っている高齢者が多い。</p>
	活動方針 (総合)	<p>①高齢化率が高い地域については関係機関や地域の関係者との連携を強化し、地域課題の検討や認知症施策に関する地域への働きかけ、集いの場等地域の拠点づくりの支援を行う。</p> <p>②高齢化率が比較的低い地区では地域へ外向き、センターの周知及び健康づくり、介護予防に関する啓発活動を積極的に行う。</p>
	重点活動 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者を取り巻く、地域課題検討の為の地域ケア会議（圏域全域） ・コミュニティカフェ移転に伴う開催支援（高津戸町）